

研究授業をいかに創るか

授業を公開しようとするとき、どのような準備をして、どんな手順で授業を創ったらよいのでしょうか？

私は、このことに明確な答えを持っていません。

それはなぜかという、そういうことを明確に書いた本を見たことがないし、先輩から「まず をしなさい」なんて教えていただいたこともないからです。

できるのは私のやり方を公開して、批判をいただくことだけです。

まず第1に、私は中教審や臨教審の答申を読みます。

現行指導要領が、どのような問題意識の元に改訂されたのかをつかむためです。

これは、現在その教科や領域で何が問題となっているのかをおおむねとらえるのに大変役立ちます。

このときに、文部科学省のHPは便利です。ただし注意することは、決してPC画面上で読むのではなく、プリントアウトしてファイリングしておくことです。

第2に指導要領を読みます。

必要箇所をコピーしたり、視写したりします。

これは、「突き詰めていくと私は何を教えようとしているのか」を見失わないためです。

授業を創ったり、あるいは授業をしているときには、授業の目的を見失いがちです。そこで、上のことが判断基準となって、授業がスマートにそして枝葉に入らなくなると思います。

第3に研究部の提案を読みます。

研究授業というのは、「検証授業」です。研究部の「研究仮説」を立証するものでなければ、いい授業であっても、スタンドプレーでしかありません。

以上二つは、簡単にまとめて言うと授業の哲学を鍛えるということです。

第4に教材を選定するということです。

特に、総合や道徳の場合はこの教材選びが授業を決めます。

それで実感をいうと、この教材選びは、研究授業をすることが決まってから集め始めても遅いのです。

私は、例えば新聞切り抜きを普段からしています。

毎日のように見えそうなテレビ番組を片っ端から録画しています。

つかえそうな本は、教育雑誌でなくても出会ったその場で買うようにしています。

行った先では、パンフや資料などをもらいます。

学校掲示用のポスターは、はがしたらいただくようにしています。

そういうことを普段からしていて、使えるのはというと1/100くらいでしょうか。

おそろしく効率の悪い話です。

次によく発問を考えます。発問づくりは次号に譲るとして、授業というのはお湯をかけたら3分でできるというのではなくて、やっぱり格闘です。

授業者が、どれだけ悩み格闘したかで授業の深さが変わると思います。